

13大都市における市民の暮らし（平成14年）

京都市総合企画局情報化推進室情報統計課

大都市統計協議会（各政令指定都市と東京都の統計担当課で構成している組織）が毎年刊行している「大都市比較統計年表」の平成14年版が、このほどまとまりましたので、この本の中から、市民の暮らしに係る主な指標について、京都市を中心に13大都市における状況を紹介します。

まず初めに、平成14年10月1日現在で13大都市における人口の基礎データを挙げると表-1のとおりです。13大都市の合計で、面積では国土総面積377,887.25 km²（国土交通省国土地理院）の1.76%を占めているにすぎませんが、人口では我が国の総人口（1億2743万5350人）の22.07%を占めています。（東京都の数値は、すべて特別区部のみの数値です。）

ちなみに京都市は、面積では国土総面積の0.16%となり、人口では国の総人口の1.15%となっていま

す。

1 人口

- 京都市と北九州市は減少傾向 -

平成14年10月1日現在での京都市の推計人口は146万6978人と、13大都市中7番目に人口の多い都市となっています。

また、平成14年の推計人口を平成12年国勢調査結果と比較しますと、京都市では人口が807人減とわずかながら減少しています。他都市をみますと北九州市では人口が減少していますが、そのほかの都市は人口が増加しています。

京都市の人口性比（女性100人当たりの男性の数）は91.8で、女性の数が男性の数を上回っており、北九州市（89.5）、札幌市（90.7）、神戸市（91.0）に次いで、女性の割合が高い都市となっています。

表-1 13大都市における人口の基礎データ

平成14年10月1日現在									
都市名	面積 (km ²)	世帯数	人口	男	女	性比 (女=100)	1世帯 当たり 人員	人口密度	国勢調査人口 (平成12年10 月1日)
京都市	610.22	632,866	1,466,978	702,173	764,805	91.8	2.32	2,404	1,467,785
札幌市	1,121.12	812,610	1,846,035	877,900	968,135	90.7	2.27	1,647	1,822,368
仙台市	788.09	431,984	1,019,124	499,605	519,519	96.2	2.36	1,293	1,008,130
千葉市	272.08	362,859	904,629	455,418	449,211	101.4	2.50	3,325	887,164
東京都	621.45	3,946,549	8,283,735	4,115,340	4,168,395	98.7	2.10	13,330	8,134,688
川崎市	144.35	567,922	1,281,706	664,793	616,913	107.8	2.26	8,879	1,249,905
横浜市	434.73	1,433,127	3,496,927	1,767,452	1,729,475	102.2	2.44	8,044	3,426,651
名古屋市	326.45	921,994	2,186,075	1,086,280	1,099,795	98.8	2.37	6,697	2,171,557
大阪市	221.82	1,202,225	2,619,335	1,281,362	1,337,973	95.8	2.18	11,808	2,598,774
神戸市	550.28	628,280	1,510,468	719,724	790,744	91.0	2.40	2,745	1,493,398
広島市	742.02	470,465	1,134,648	550,736	583,912	94.3	2.41	1,529	1,126,239
北九州市	485.25	415,622	1,006,458	475,228	531,230	89.5	2.42	2,074	1,011,471
福岡市	340.03	621,870	1,368,450	659,024	709,426	92.9	2.20	4,024	1,341,470
合計	6,657.89	12,448,373	28,124,568	13,855,035	14,269,213	97.1	2.26	4,224	27,739,600

これとは反対に、男性の数が女性の数を上回っている都市は、川崎市(107.8)、横浜市(102.2)、千葉市(101.4)の3都市となっています。

1世帯当たりの人員は、各都市とも減少が進み、最も少ないのは東京都の2.10人で、次いで大阪市(2.18人)、福岡市(2.20人)となっています。逆に、最も多いのは千葉市の2.50人で、次いで横浜市(2.44人)、北九州市(2.42人)となっており、京都市は2.32人で8番目となっています。

次に、1k㎡当たりの人口密度をみますと、13大都市はすべて1千人を超えており、東京都と大阪市では1万人を、川崎市、横浜市、名古屋市では5千人を上回っています。平成12年の国勢調査結果と比較して人口密度が低下している都市は、京都市及び北九州市の2都市のみとなっています。京都市は2,404人で、13大都市中9番目となっています。

前ページの表 - 1 参照

(1) 出生率

- 京都市を含め8都市で低下 -

推計人口による人口1,000人当たりの出生率を前年と比較しますと、8都市が減少、3都市が増加、2都市が増減なしとなっています。京都市は0.1ポイントの減少となっています。

出生率が高いのは、川崎市の10.8人を最高に、広島市(10.2人)、仙台市、千葉市、福岡市(ともに9.7人)で、低いのは、東京都(8.0人)、札幌市(8.3人)、京都市(8.6人)と続き、京都市は13大都市中11番目となっています。

図 1 及び 13 ページ参照

(2) 死亡率

- 京都市を含む6都市で上昇、東京都のみ低下 -

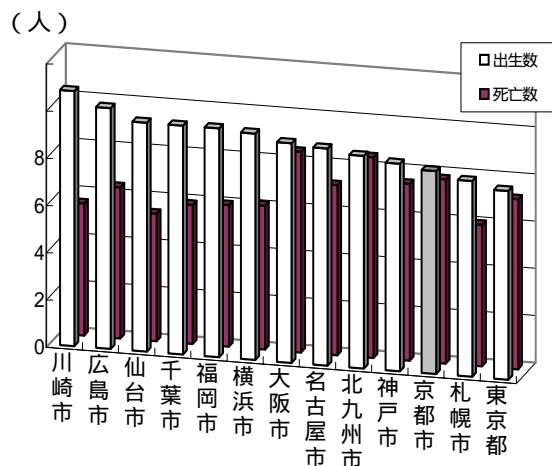
推計人口による人口1,000人当たりの死亡率を前年と比較しますと、千葉市が0.3ポイント、北九州市が0.2ポイント、札幌市、横浜市、京都市、福岡市がそれぞれ0.1ポイントの上昇となっていま

す。これとは反対に東京都のみが0.1ポイント死亡率が低下しています。その他の6都市については、増減なしとなっています。

死亡率が一番高いのは北九州市で8.8人、以下、大阪市(8.5人)、京都市(7.8人)と続いています。一番低いのは仙台市(5.4人)で、以下、川崎市(5.6人)、千葉市(5.9人)となっています。

図 - 1 及び 13 ページ参照

図 - 1 人口1,000人当たりの出生数、死亡数



(3) 社会増加、自然増加

- 京都市を含む4都市で社会増加数がマイナス -

人口1,000人当たりの転入数から転出数を差し引いた社会増加数をみますと、最も高いのは福岡市の6.3人で、次いで東京都、横浜市(ともに6.2人)、千葉市(5.8人)となっています。逆に、最も低いのは、北九州市の2.7人で、以下、京都市(1.6人)、仙台市(1.0人)、広島市(0.3人)が転出超過となっています。

また、人口 1,000 人当たりの出生数から死亡数を差し引いた自然増加数をみますと、最も高いのは川崎市の 5.2 人で、次いで仙台市 (4.3 人)、千葉市、広島市 (ともに 3.8 人) となっています。逆に、最も低いのは、北九州市の 0.3 人で、次いで東京都 (0.7 人)、京都市、大阪市 (ともに 0.8 人) となっています。

表 - 2 及び表 - 3 参照

**表 - 2 人口1,000人当たりの社会増加数の
13年、14年比較**

(単位 人)

都市名	13年	14年	都市名	13年	14年
京都市	0.9	1.6	名古屋市	0.6	1.8
札幌市	3.9	4.8	大阪市	3.5	2.6
仙台市	1.1	1.0	神戸市	5.2	2.9
千葉市	5.8	5.8	広島市	0.7	0.3
東京都	8.7	6.2	北九州市	3.4	2.7
川崎市	8.0	5.7	福岡市	6.0	6.3
横浜市	6.8	6.2			

**表 - 3 人口1,000人当たりの自然増加数の
13年、14年比較**

(単位 人)

都市名	13年	14年	都市名	13年	14年
京都市	1.0	0.8	名古屋市	2.4	2.0
札幌市	2.5	2.3	大阪市	1.0	0.8
仙台市	4.6	4.3	神戸市	1.2	1.2
千葉市	4.0	3.8	広島市	4.1	3.8
東京都	0.6	0.7	北九州市	0.5	0.3
川崎市	5.4	5.2	福岡市	4.0	3.7
横浜市	3.8	3.5			

(4) 婚姻件数

- 京都市は 13 都市中、最も低い -

厚生労働省が所管する人口動態調査による人口 1,000 人当たりの婚姻件数をみますと、川崎市が 8.3 件で最も高く、次いで東京都 (7.3 件)、福岡市 (7.1 件) となっています。逆に、最も低いのは京都市の 5.8 件で、次いで神戸市、北九州市 (ともに 5.9 件)、広島市 (6.4 件) となっています。前年と比較しますと、13 都市すべてで減少しており、最も減少しているのは仙台市の 0.7 ポイント減、次いで川崎市、

神戸市 (ともに 0.6 ポイント減)、京都市、大阪市、広島市 (ともに 0.5 ポイント減) となっています。

13 ページ参照

(5) 離婚件数

- 5 都市で減少 -

人口動態調査による人口 1,000 人当たりの離婚件数をみますと、大阪市が 3.2 件で最も高く、次いで札幌市 (2.9 件)、北九州市、福岡市 (ともに 2.8 件) となっています。逆に、最も低いのは仙台市の 2.2 件で、次いで千葉市、横浜市、広島市 (ともに 2.3 件) となっています。前年との比較では、大阪市、神戸市、福岡市の 3 都市でそれぞれ 0.1 ポイント増加しており、札幌市、東京都、川崎市、広島市、北九州市の 5 都市でそれぞれ 0.1 ポイント減少しています。京都市を含む 5 都市では増減がありません。

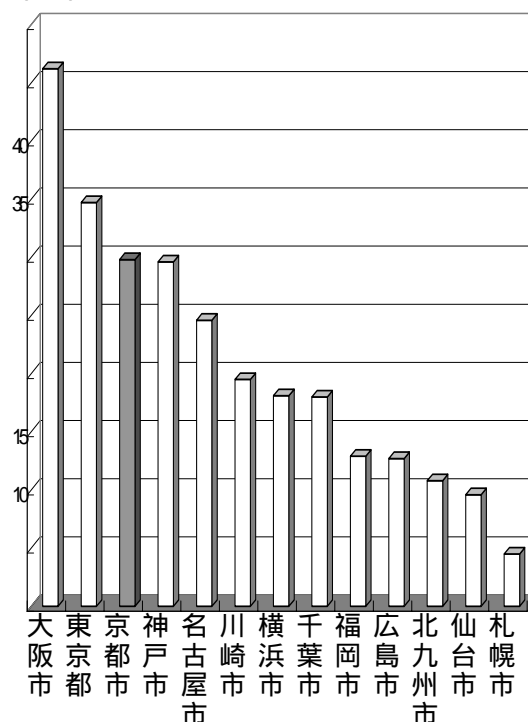
13 ページ参照

(6) 外国人登録人口

- 13 都市すべてで増加 -

平成 14 年 12 月末現在の人口 1,000 人当たりの外

**図 - 2 人口 1,000 人当たりの外国人登録人口
(人)**



国人登録人口をみますと、最も多いのは大阪市の46.2人で、次いで東京都(34.7人)、京都市(29.8人)の順となっています。逆に、最も少ないのは札幌市の4.5人で、次いで仙台市(9.6人)、北九州市(10.8人)となっています。また、前年と比較して最も増加しているのは、名古屋市の1.2ポイント増で、次いで東京都(1.0ポイント増)、千葉市、横浜市、福岡市(ともに0.7ポイント増)と続いており、13大都市すべての都市で前年より増加しています。

前ページの図 - 2 及び 13 ページ参照

2 工業統計調査

- 13 大都市すべて事業所数、従業者数ともに減少 (前回平成 13 年調査と比較) -

製造業に属する従業者 4 人以上の事業所を対象に平成 14 年 12 月 31 日現在で行われた工業統計調査の結果によりますと、事業所数が最も多いのは東京都で 18,833 事業所、次いで大阪市(9,711 事業所)、名古屋市(6,706 事業所)となっており、京都市は 3,630 事業所で 5 番目になっています。

事業所数の対前回増加率をみますと、13 大都市すべてにおいてマイナスとなっています。減少率が最も高いのは東京都の 15.8 ㊦減で、次いで大阪市(11.5 ㊦減)、札幌市(10.8 ㊦減)となっています。一方、減少率が最も少ないのは福岡市(6.6 ㊦減)以下、広島市(6.7 ㊦減)、川崎市(6.9 ㊦減)となっています。

続いて、従業者数の対前回増加率をみますと、事業所数と同様に 13 大都市すべてでマイナスとなっています。減少率が最も高いのは東京都の 24.2 ㊦減で、次いで福岡市(16.6 ㊦減)、大阪市(15.9 ㊦減)となっています。逆に減少率が最も低いのは神戸市の 4.8 ㊦減で、以下、広島市(5.0 ㊦減)、千葉市(7.0 ㊦減)となっています。(平成 14 年数値は、日本標準産業分類の第 11 回改訂(平成 14 年 10 月 1 日から適用)に伴う新工業統計調査用産業分類を適用してい

ますが、平成 13 年数値については、旧分類に基づいた数値をそのまま掲載しています。)

表 - 4 参照

表 - 4 製造業の事業所数及び従業者数
(従業者4人以上の事業所)

12月31日

都市名	事業所数		従業者数	
	平成 13 年	平成 14 年	平成 13 年	平成 14 年
京都市	3,916	3,630	82,207	76,017
札幌市	1,516	1,352	37,978	33,069
仙台市	828	759	22,711	20,295
千葉市	623	560	21,274	19,780
東京都	22,377	18,833	354,922	269,058
川崎市	2,098	1,953	68,784	61,557
横浜市	4,080	3,747	126,872	117,581
名古屋市	7,236	6,706	139,646	128,278
大阪市	10,976	9,711	195,867	164,731
神戸市	2,637	2,382	73,447	69,918
広島市	1,651	1,540	52,082	49,503
北九州市	1,443	1,327	60,363	53,067
福岡市	1,310	1,223	31,292	26,093

3 消費者物価地域差指数と家計調査

- 総合、食料ともに東京都が 1 位 -

各都市間の物価水準の高低を比較する消費者物価地域差指数における全国を 100 とした平成 14 年の総合指数をみますと、最も高いのは、東京都の 109.8 で、以下、横浜市(108.6)、大阪市(106.8)となっており、京都市は 104.9 で大都市中 5 番目となっています。逆に、最も低いのは北九州市の 98.6 で、以下、広島市(99.8)、福岡市(100.8)となっています。

食料のみの指数をみますと、最も高いのは総合指数と同じく東京都の 108.3 で、以下、京都市(106.8)、横浜市(106.4)となっています。逆に、最も低いのは仙台市の 99.4 で、以下、広島市、北九州市(ともに 99.5)、福岡市(101.0)となっています。

次ページの表 - 5 参照

次に、家計調査による全世帯平均1か月間の消費支出金額からエンゲル係数（家計に占める食料費の割合）をみますと、最も高いのは、名古屋市の26.1%で、以下、大阪市、神戸市（ともに25.6%）、京都市（25.5%）と続いています。逆に、最も低いのは、広島市の20.6%で、次いで札幌市（21.8%）、仙台市（22.1%）となっています。

表 - 6 参照

表 - 5 消費者物価地域差指数

(全国 = 100)

都市名	総合		食料	
	平成13年	平成14年	平成13年	平成14年
京都市	104.8	104.9	107.1	106.8
札幌市	103.1	103.6	103.0	102.6
仙台市	103.6	101.8	101.5	99.4
千葉市	102.2	102.3	101.8	102.7
東京都	109.5	109.8	107.6	108.3
川崎市	106.2	106.5	104.6	105.2
横浜市	107.7	108.6	105.3	106.4
名古屋市	105.1	104.8	103.8	103.4
大阪市	108.0	106.8	106.5	105.1
神戸市	103.6	103.5	102.8	102.7
広島市	99.6	99.8	98.6	99.5
北九州市	100.6	98.6	102.8	99.5
福岡市	103.0	100.8	102.8	101.0

表 - 6 家計調査による全世帯1か月当たりのエンゲル係数

(単位 %)

都市名	平成12年	平成13年	平成14年
京都市	26.3	27.0	25.5
札幌市	22.6	21.0	21.8
仙台市	22.9	22.9	22.1
千葉市	24.7	23.1	23.4
東京都	23.4	23.7	23.9
川崎市	24.5	23.3	24.6
横浜市	23.7	23.8	24.5
名古屋市	23.9	24.4	26.1
大阪市	25.9	25.5	25.6
神戸市	25.5	24.4	25.6
広島市	22.0	21.2	20.6
北九州市	24.6	25.0	23.4
福岡市	22.6	20.6	22.3

4 新設住宅着工戸数

- 京都市を含め、7都市がマイナス -

平成14年の建築着工統計における平成14年中の新設住宅着工戸数対前年増加率をみますと、最も高いのは北九州市の17.6%増で、以下、東京都（8.2%増）、大阪市（6.4%増）と続いています。逆に最も低いのは、川崎市が16.2%減、以下、神戸市（14.2%減）、千葉市（10.4%減）と続いています。

表 - 7 参照

表 - 7 新設住宅着工戸数

(単位 戸数 = 戸, 増加率 = %)

都市名	平成12年	平成13年	平成14年	対前年増加率
京都市	14,273	13,803	13,637	1.2
札幌市	20,281	20,073	21,106	5.1
仙台市	12,107	11,660	12,055	3.4
千葉市	9,645	10,300	9,232	10.4
東京都	119,268	114,210	123,567	8.2
川崎市	18,723	19,222	16,115	16.2
横浜市	45,564	42,818	42,094	1.7
名古屋市	27,181	24,576	25,226	2.6
大阪市	33,243	31,167	33,163	6.4
神戸市	15,719	13,736	11,786	14.2
広島市	11,060	10,263	9,759	4.9
北九州市	8,219	5,950	6,995	17.6
福岡市	21,085	18,862	18,264	3.2



5 職業紹介状況

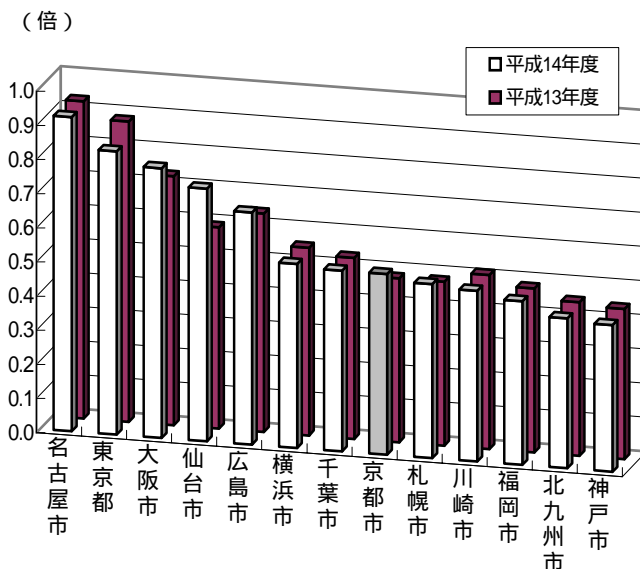
- 有効求人倍率，京都市は8番目 -

労働力需給を示す有効求人倍率（有効求人数 / 有効求職者数）をみますと，大都市中最も高いのは名古屋市の0.92倍で，以下，東京都（0.83倍），大阪市（0.79倍）となっています。逆に，最も低いのは神戸市の0.43倍で，以下，北九州市（0.44倍），福岡市（0.48倍）となっています。

図 - 3 参照

大都市比較統計年表 .8 表を参照してください。

図 - 3 有効求人倍率



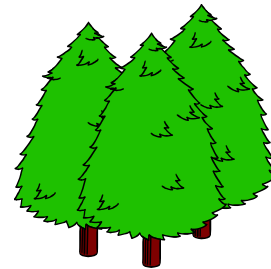
6 自動車台数

- 東京，大阪が少なく，名古屋が多い -

平成14年度末の市民10人当たりの自動車台数をみますと，最も多いのは，名古屋市の5.8台で，以下，仙台市（5.7台），北九州市（5.5台），広島市（5.4台），札幌市（5.3台），千葉市（5.1台）となっており，2人で1台以上の割合となっています。一方，最も台数が少ないのは，東京都（3.3台）で，以下，大阪市（3.4台），川崎市（3.6台）となっています。

また，京都市は4.1台で，神戸市と並んで13大都市中9番目となっています。

13ページ参照



7 都市公園

- 市民1人当たり面積は神戸市が広い -

平成14年度末の市民1人当たりの都市公園面積をみますと，最も広いのは神戸市の16.46㎡で，以下，北九州市（10.65㎡），仙台市（10.58㎡）となっています。逆に，最も狭いのは東京都の2.87㎡で，以下，大阪市（3.46㎡），川崎市（3.63㎡）と続きます。京都市は4.07㎡で13都市中10番目となっています。

13ページ参照

8 下水道普及率

- 京都市は99.2%で，大都市中6番目 -

各都市の平成14年度の下水道普及率（排水区域人口 / 推計人口）をみますと，最も高いのが東京都の100%で，以下，大阪市（99.9%），横浜市，名古屋市（ともに99.6%）となっており，京都市は，99.2%で6番目となっています。逆に，最も低いのが千葉市の90.1%で，以下，広島市（91.1%），仙台市（94.0%）となっています。

14ページ参照

9 ごみ収集量

- 大阪市，神戸市が，1,2位を占める -

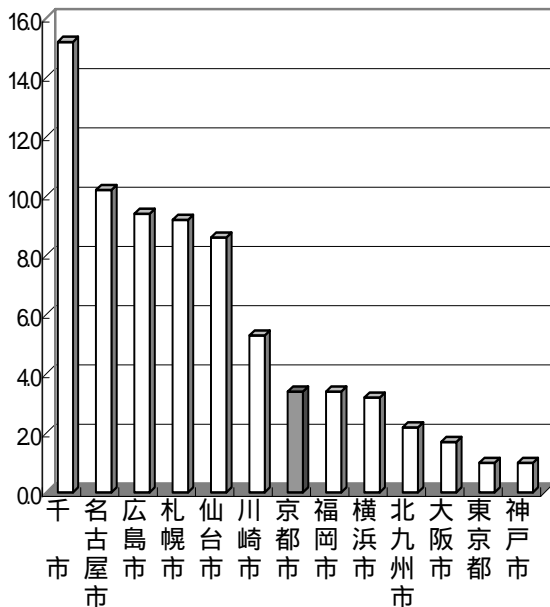
平成14年度の1人1日当たりのごみの量をみますと，最も多いのは大阪市の1.74kgで，以下，神戸市(1.65kg)，福岡市(1.57kg)となっており，京都市は1.35kgで6番目となっています。逆に，最も少ないのは，名古屋市の1.05kgで，次いで広島市(1.07kg)，川崎市(1.12kg)となっています。ごみの再資源化率(再資源化量/総処分量)をみますと，最も高いのは千葉市の15.2%で，以下，名古屋市(10.2%)，広島市(9.4%)となっており，逆に，最も低いのは神戸市の1.0%となっています。

京都市は3.4%で福岡市とともに7番目となっています。

図 4 及び 14 ページ参照

大都市比較統計年表 .10 を参照してください。

図 - 4 ごみの再資源化率



10 小学校，中学校の児童・生徒数

- 京都市は1教員当たりの児童・生徒数が

最も少ない -

小学校の児童数は，千葉市，東京都，川崎市，横浜市，福岡市を除く8都市で前年より減少しています。京都市は前年より0.5%減少の71,946人となっています。また，中学校の生徒数については，13大都市すべてで前年より減少しており，京都市は前年より3.2%減少の39,913人となっています。

小学校の1教員当たりの児童数をみますと，最も多いのは福岡市の22.46人で，京都市は19.13人と1番少ない都市となっています。また，中学校の1教員当たりの生徒数は，広島市が18.26人で最も多く，京都市は15.71人で，小学校と同様に1番少ない都市となっています。

表 8 及び 14 ページ参照

表 - 8 小学校の児童数及び中学校の生徒数

都市名	小学校(児童数)		中学校(生徒数)	
	平成13年	平成14年	平成13年	平成14年
京都市	72,302	71,946	41,214	39,913
札幌市	99,170	98,303	56,443	54,271
仙台市	57,246	56,910	31,524	30,638
千葉市	47,880	48,414	25,036	24,593
東京都	350,828	351,744	203,442	198,750
川崎市	64,017	65,220	29,373	28,828
横浜市	182,425	184,359	92,356	90,120
名古屋市	118,293	117,761	63,725	62,187
大阪市	126,153	126,000	69,925	68,180
神戸市	82,072	81,204	46,587	44,995
広島市	67,907	67,847	37,350	36,159
北九州市	54,867	54,297	30,388	29,079
福岡市	74,619	74,757	41,247	39,861

5月1日



11 高等学校卒業者の進学率

- 京都市は0.1ポイント差で1番目に -

平成14年5月1日現在の学校基本調査結果から、平成14年に高等学校を卒業した人のうち、大学や短期大学へ進学した人の割合をみますと、京都市は56.9%で、広島市(56.8%)を0.1ポイント上回り4年連続で1位となっています。

14ページ参照



12 介護保険事業

- 京都市の要介護認定者数は46,612人 -

平成14年度末の京都市の要介護(要支援)認定者の総数は46,612人となっています。人口1,000人当たりの数で見ますと、北九州市が38.2人で最も多く、次いで大阪市(33.7人)、京都市(31.8人)と続いています。逆に、最も少ないのは千葉市の17.4人で、以下、川崎市(18.3人)、仙台市(21.4人)となっています。

平成14年度の京都市の保険給付支払状況(支払済額累計)は、65,278,559千円となっています。要介護(要支援)認定者の総数ひとり当たり保険給付支払状況を見ますと、最も多いのは、札幌市(1,407千円)で、以下、福岡市(1,406千円)、京都市(1,401千円)となっています。逆に最も少ないのは、大阪市の1,117千円で、以下、横浜市(1,224千円)、川崎市(1,240千円)となっています。

14ページ参照

大都市比較統計年表 .10, 11 表を参照してください。

13 犯罪発生認知件数(刑法犯)

- 京都市の犯罪件数、増加続く -

平成14年中の京都市の犯罪(刑法犯)発生認知件数は41,830件で、前年に比べて1,627件増加しています。

また、人口1,000人当たりの犯罪(刑法犯)発生認知件数を見ますと、最も多いのは大阪市の48.0件で、以下、福岡市(42.1件)、北九州市(40.1件)となっています。逆に、最も少ないのは横浜市の20.6件で、京都市は28.5件と少ない方から7番目となっています。

14ページ参照

大都市比較統計年表 .1 表を参照してください。

14 交通事故

- 人口当たりの発生件数は京都市が5番目に多い -

平成14年中の京都市における交通事故(人身事故)の発生件数は11,795件で、前年に比べて155件減っています。

また、人口1,000人当たりの発生件数を見ますと、最も多いのは、福岡市の11.0件で、以下、北九州市(9.5件)、名古屋市(8.8件)と続きます。京都市は8.0件で、5番目になっています。また、逆に一番少ないのは、仙台市、川崎市の6.3件で、以下、札幌市(6.4件)、千葉市(6.8件)となっています。

14ページ参照

大都市比較統計年表 .3 表を参照してください。

15 火災発生件数

- 京都市は火災の一番少ない街 -

平成14年中の京都市の火災発生件数は330件で、前年に比べ4件増加していますが、大都市の中では一番火災発生件数が少なくなっています。

また、人口1万人当たりの火災発生件数をもても京都市が2.2件で一番少なく、以下、札幌市(2.8

件), 横浜市(3.3件)となっています。逆に, 最も多いのは, 大阪市の6.1件で, 次いで東京都, 名古屋市, 北九州市(ともに5.9件)となっています。

表9及び14ページ参照



表 - 9 火災発生件数

(単位 件)

都市名	平成12年	平成13年	平成14年
京都市	335	326	330
札幌市	618	577	519
仙台市	410	423	437
千葉市	369	444	418
東京都	4,978	5,216	4,918
川崎市	443	466	476
横浜市	1,107	1,181	1,157
名古屋市	1,324	1,331	1,297
大阪市	1,623	1,700	1,599
神戸市	782	811	742
広島市	553	629	620
北九州市	500	602	597
福岡市	546	486	510

の6,809件で, 以下, 東京都(5,712件), 千葉市(4,608件)となっており, 京都市は4,215件で, 横浜市と並んで大都市の中で4番目に多くなっています。

14ページ参照

大都市比較統計年表 .13 表を参照してください。

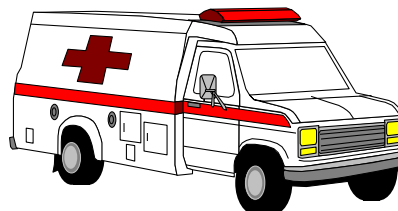


表 - 10 救急出動件数

(単位 件)

都市名	平成12年	平成13年	平成14年
京都市	57,537	59,985	61,830
札幌市	61,290	64,070	67,707
仙台市	29,902	32,112	33,411
千葉市	37,427	40,246	41,685
東京都	432,881	456,151	473,178
川崎市	48,016	50,128	52,352
横浜市	132,645	140,952	147,402
名古屋市	79,384	82,175	87,187
大阪市	164,973	174,881	178,349
神戸市	56,104	59,040	60,498
広島市	36,459	38,752	39,780
北九州市	37,301	39,810	41,043
福岡市	46,496	49,251	51,752

16 救急出動件数

- 13 大都市すべてで出動件数が増加 -

平成14年中の京都市の救急出動件数は61,830件で, 前年に比べると1,845件増えており, 大都市の中で6番目に多い件数となっています。また, 人口10万人当たりの出動件数が最も多いのは, 大阪市

今回紹介しました「大都市比較統計年表」平成14年版は総務局総務部行政改革課情報公開コーナーで閲覧, 販売(一冊700円)しています。

都市名	出生 人口1千人当たり 人		死亡 人口1千人当たり 人		婚姻 人口1千人当たり 件		離婚 人口1千人当たり 件		外国人 登録人口 人口1千人当たり 人 (注1)		製造業における 製造品出荷額等 従業者1人当たり 万円	
	平成13年	平成14年	平成13年	平成14年	平成13年	平成14年	平成13年	平成14年	平成13年	平成14年	平成13年	平成14年
京都市	8.7	8.6	7.7	7.8	6.3	5.8	2.4	2.4	29.6	29.8	2,883.3	2,661.5
札幌市	8.3	8.3	5.9	6.0	6.8	6.6	3.0	2.9	4.4	4.5	1,783.5	1,777.2
仙台市	10.0	9.7	5.4	5.4	7.5	6.8	2.2	2.2	9.1	9.6	3,979.4	3,800.0
千葉市	9.5	9.7	5.6	5.9	6.9	6.5	2.3	2.3	17.3	18.0	4,062.5	4,180.7
東京都	7.9	8.0	7.3	7.2	7.7	7.3	2.5	2.4	33.7	34.7	2,617.7	2,056.1
川崎市	11.0	10.8	5.6	5.6	8.9	8.3	2.5	2.4	18.9	19.5	5,563.4	5,767.8
横浜市	9.7	9.6	6.0	6.1	7.3	7.0	2.3	2.3	17.4	18.1	3,545.9	3,423.3
名古屋市	9.5	9.2	7.2	7.2	6.9	6.5	2.4	2.4	23.4	24.6	2,723.4	2,636.6
大阪市	9.5	9.3	8.5	8.5	7.4	6.9	3.1	3.2	46.0	46.2	2,683.8	2,619.3
神戸市	8.7	8.8	7.5	7.5	6.5	5.9	2.5	2.6	29.3	29.6	3,586.5	3,545.3
広島市	10.5	10.2	6.4	6.4	6.9	6.4	2.4	2.3	12.6	12.7	3,321.7	3,319.4
北九州市	9.0	9.0	8.6	8.8	6.0	5.9	2.9	2.8	10.5	10.8	3,053.8	2,940.7
福岡市	9.9	9.7	5.9	6.0	7.4	7.1	2.7	2.8	12.2	12.9	2,433.1	2,436.9
比較年表 参照表	.5表				.6表				.4表		.1表	

都市名	公共職業安定 所における労 働者の就職率 %		自動車台数 (年度末) 市民10人当たり (注2) 台		道路舗装率 (翌年4月1日現在) 舗装面積 / 総面積 %		都市公園 (年度末) 市民1人当たり面積 (注2) ㎡		電気 1世帯1か月 家庭消費量 kWh		ガス 1世帯1か月 家庭消費量 メガジュール	
	平成13年	平成14年	平成13年	平成14年	平成13年	平成14年	平成13年	平成14年	平成13年	平成14年	平成13年	平成14年
京都市	26.3	26.6	4.2	4.1	97.18	97.22	4.03	4.07	443	450	1,370	1,391
札幌市	38.6	36.0	5.3	5.3	85.26	85.91	10.33	10.45	342	344	1,053	1,096
仙台市	22.4	22.0	5.7	5.7	97.15	96.54	10.41	10.58	371	378	1,529	1,522
千葉市	16.6	17.4	5.2	5.1	92.30	94.50	8.68	8.74	327	338	1,706	1,561
東京都	18.8	18.4	3.4	3.3	97.61	97.62	3.03	2.87	419	433	1,402	1,459
川崎市	18.0	19.0	3.7	3.6	95.83	95.92	3.58	3.63	369	382	1,407	1,446
横浜市	18.7	18.4	4.2	4.2	99.28	99.27	4.44	4.49	385	396	1,555	1,602
名古屋市	19.5	20.2	5.8	5.8	99.06	99.08	6.73	6.76	904	922	1,344	1,371
大阪市	22.3	21.9	3.5	3.4	97.76	97.82	3.47	3.46	444	450	1,321	1,344
神戸市	18.7	19.3	4.1	4.1	92.04	92.52	16.48	16.46	421	428	1,491	1,515
広島市	27.3	27.5	5.4	5.4	97.82	97.87	7.45	7.57	438	446	1,155	1,164
北九州市	23.9	25.1	5.5	5.5	97.61	97.67	10.47	10.65	432	438	1,127	1,135
福岡市	19.0	19.6	4.9	4.9	97.99	98.06	8.57	8.59	522	527	1,085	1,089
比較年表 参照表	.8表		.12表		.1表		.11表		.1表		.2表	

(注1)12月1日現在の推計人口で算出 (注2)年度末の推計人口で算出

この表は、大都市統計協議会が毎年刊行している「大都市比較統計年表」(平成13年版及び14年版)から一部加工して作成しています。人口1千人当たり、あるいは人口1万人当たりなどの表示があるものについては、原則として10月1日現在の推計人口で算出していますが、それ以外に年度末等の推計人口で算出している場合には脚注で記載しています。

都市名	下水道 (年度末)		ごみ収集量 (年度)		小学校		中学校		進学率 (大学・短大)		保育所 (年度末)		生活保護 (年度平均)	
	排水区域人口 / 推計人口 (注2) %		1人1日当たり kg		1教員当たり児童数 人		1教員当たり生徒数 人		3月高校卒業者 %		人口1千人当たり定員 人		人口1千人当たり 人	
	平成13年	平成14年	平成13年	平成14年	平成13年	平成14年	平成13年	平成14年	平成13年	平成14年	平成13年	平成14年	平成13年	平成14年
京都市	99.2	99.2	1.46	1.35	19.33	19.13	16.19	15.71	59.5	56.9	16.21	16.20	21.1	22.7
札幌市	99.4	99.4	1.47	1.41	21.66	21.31	18.48	18.08	46.9	44.5	7.53	7.54	22.1	23.5
仙台市	93.9	94.0	1.24	1.19	20.26	19.76	17.18	16.77	43.9	44.7	7.58	8.07	7.5	8.2
千葉市	87.8	90.1	1.21	1.23	20.71	20.50	17.08	16.76	45.4	48.1	9.95	10.05	7.4	8.6
東京都	100.0	100.0	1.18	1.16	19.18	19.16	17.07	16.77	53.5	53.1	12.15	18.67	13.7	14.6
川崎市	97.9	98.2	1.11	1.12	20.45	20.39	16.74	16.74	45.8	46.9	8.56	8.46	14.1	15.5
横浜市	99.6	99.6	1.32	1.28	21.06	21.00	17.99	17.58	51.3	50.3	6.69	6.96	10.1	11.0
名古屋市	99.6	99.6	1.06	1.05	21.20	20.98	18.16	17.80	51.5	51.5	14.41	14.44	8.6	9.6
大阪市	99.9	99.9	1.83	1.74	19.63	19.40	16.50	16.19	47.6	46.7	13.84	14.14	28.2	31.3
神戸市	98.1	98.2	1.70	1.65	20.31	20.10	16.97	16.54	53.6	51.5	10.44	10.52	20.6	22.8
広島市	90.0	91.1	1.09	1.07	21.33	21.29	18.44	18.26	56.6	56.8	14.89	15.36	10.5	11.9
北九州市	98.0	98.5	1.41	1.39	20.82	20.39	17.66	17.40	41.1	40.4	15.09	15.23	12.5	12.7
福岡市	98.9	99.1	1.40	1.57	22.48	22.46	18.52	18.01	50.3	50.3	15.93	15.91	16.3	16.9
比較年表 参照表	.4表		.10表		.2表		.3表		.9表		.4表		.2表	

都市名	介護保険要介護 (要支援)認定者数		介護保険給付 支払状況		医療施設数 (10月1日現在)		刑法犯犯罪 (認知件数)		交通事故 (人身事故)		火災 (発生件数)		救急 (出動件数)	
	人口1千人当たり (注2) 人		保険給付支払状況 / 要認定者数 千円		人口10万人当たり か所		人口1千人当たり 件		人口1千人当たり 件		人口1万人当たり 件		人口10万人当たり 件	
	平成13年	平成14年	平成13年	平成14年	平成13年	平成14年	平成13年	平成14年	平成13年	平成14年	平成13年	平成14年	平成13年	平成14年
京都市	27.9	31.8	1,432.7	1,400.5	177.6	178.3	27.4	28.5	8.1	8.0	2.2	2.2	4,087	4,215
札幌市	20.8	24.3	1,505.6	1,407.1	138.0	138.7	23.8	23.3	6.7	6.4	3.1	2.8	3,494	3,668
仙台市	18.0	21.4	1,347.3	1,281.0	136.6	137.6	28.3	27.1	6.1	6.3	4.2	4.3	3,166	3,278
千葉市	14.7	17.4	1,326.0	1,333.3	129.4	128.8	34.5	33.5	6.9	6.8	5.0	4.6	4,494	4,608
東京都	21.4	25.0	1,326.8	1,322.0	213.2	212.6	26.5	26.8	7.4	7.2	6.4	5.9	5,556	5,712
川崎市	15.4	18.3	1,259.9	1,240.1	118.6	118.5	20.9	23.5	6.6	6.3	3.7	3.7	3,958	4,085
横浜市	18.5	21.8	1,217.2	1,223.9	127.4	129.3	20.3	20.6	7.3	7.0	3.4	3.3	4,072	4,215
名古屋市	20.5	23.7	1,366.4	1,344.8	154.2	153.4	36.3	37.5	9.1	8.8	6.1	5.9	3,774	3,988
大阪市	27.3	33.7	1,171.1	1,117.3	211.4	214.5	52.3	48.0	7.5	7.8	6.5	6.1	6,702	6,809
神戸市	25.7	30.0	1,271.6	1,271.1	163.6	164.2	28.4	33.7	7.5	7.5	5.4	4.9	3,927	4,005
広島市	22.3	26.3	1,429.5	1,379.3	165.0	164.5	28.6	28.0	8.1	8.3	5.6	5.5	3,430	3,506
北九州市	31.7	38.2	1,331.2	1,257.1	173.2	175.2	34.6	40.1	9.7	9.5	6.0	5.9	3,947	4,078
福岡市	19.1	22.7	1,505.8	1,406.0	169.0	169.1	41.2	42.1	10.9	11.0	3.6	3.7	3,637	3,782
比較年表 参照表	.10表		.11表		.3表		.1表		.3表		.12表		.13表	

(注2)年度末の推計人口で算出

この表は、大都市統計協議会が毎年刊行している「大都市比較統計年表」(平成13年版及び14年版)から一部加工して作成しています。人口1千人当たり、あるいは人口1万人当たりなどの表示があるものについては、原則として10月1日現在の推計人口で算出していますが、それ以外に年度末等の推計人口で算出している場合には脚注で記載しています。